



少子化？

「オーイ散歩行くぞ」休日の夕方ともなると食事前の腹ごなしに近所を一回りするのが我が家の習わしにいつからかなっている。30年程前ここへ越してきた当時、見渡す限り周囲は竹藪に囲まれ、北側には山の壁、少し歩くと四季折々いろんな花が咲き、実がなる田畑が目につき、境川の支流の土手道が私にとっては村一番の散歩道だった。時には散歩の途中、畑で働く村人と立ち話をしたり、帰りに採りたての野菜をもらってぶら下げて散歩を続けたり、のんびりとした休日を楽しんだものでした。

昨今、都市化が進んだのか周囲を囲んでいた竹藪が借家やマンションに様変わり、田畑も建売りが建ち並び、季節の変わり目を大根やナスビ、トマトやキュウリ等々の花で感じ、目で楽しんでいたのだが、都市化が進み交通網も便利になる。建ち並ぶ家々を見ながら何か物足りなさとしんしさを感ずる味気のない休日の散歩となりつつある。

健康志向の昨今、ジョギングや散歩をする人で我が散歩道も夕方ともなると多くの人達との出会いの場所に様変わり、そんな中片手にスコップとビニール袋をぶら下げ、もう一方で愛犬に引っ張られ、いや引っ張ってどちらの運動か分からない様な人が増え、人との出会いというよりワンちゃんの合コンの場所となりつつある。

連れて歩いているワンちゃんも時代の変化か、見た目で見前の分からないブランド志向がこんなとこまでと思われる、あのシェパードやハスキー、スピッツは何処へいったのか、小型の室内犬がわが者顔で引っ張り、引っ張られている。何とはなく飼い主と愛犬の会話を聞くととはなく聞いていると、ほとんどが赤ちゃん言葉で、愛犬がまるで自分達の孫か、子供の様に「ちゃむいでちゅか、もうおうちに帰りましょか」「そんなところはババチーよ」「もうお腹ちゅいたのー」とか聞いていると、おかしいやらバカバカしいやら、核家族化少子化の影響がこんなところに出てきているのか。

物分りのいいような顔をして子供を独立させたものの、老夫婦二人の生活の淋しさから犬を飼う様になったり、若夫婦がいろんな理由から子供の代わりに犬を飼ったり、独居老人が無用心だと飼い始めたり、なんと機械でできた犬を孫の様に可愛がったり、そんなところに目をつけ介助犬をコンピュータ制御で世に売り出したりする企業も出てきた。

昔は動物を飼うことで子供達に生命の尊さを教え、又用心にもなると小鳥、猫や犬が飼われていた。最近では自分の淋しさから、やり場のない愛情の押し売りのために飼われるのが多いようだが、動物を飼ったり、機械犬を世に出す努力、それが間違いとは思わないがもっと他にすることがあるのではないかな。少子化対策を一人ひとりが本当に真剣に考える時が来ているのでは。

夢追い人

